



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	東西工業株式会社 社屋建築工事(工場棟)	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.1	/5		ふつつ	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ②ショールーム兼事務室の昼光率は3.2% ④外壁材に耐用年数25年の材料を採用。 ④主要配管の期待耐用年数40年。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤既存樹木と新設樹木・緑地で、外構緑化指数26%分の緑地を確保。 ⑥外構の舗装面積率を30%未満に抑え、敷地の暑熱環境を緩和した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑩BEI_m=0.44をマークし、省エネ基準(大規模工場モデル)を達成。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪自動水栓の洗面器と節水型便器を採用。 ⑫造作材の材料にミツガを採用。 ⑬S造で、内壁・天井は外壁表し又はLGS+仕上材で分別しやすい。 ⑬押出法ポリスチレンフォーム保温板2種のODP=0,GWP=3 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭本建築物のライフサイクルCO₂は、参照値の75%。 ⑮夏季の卓越風向について、見付面積比41%、隣棟間隔指数0.64で、風通しに配慮。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.7
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰節水型便器を採用。 ⑰災害対策として、防災無線を設置。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲外気非開放の作業場および事務所の壁長さ比率は0.08。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑建築物の一部にショールームを設置。また、道路境界沿いや駐車場にライトを設置する事で、防犯性向上に配慮。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤既存樹木を保存の上、新設樹木・緑地で、外構緑化指数26%分の緑地を確保。 ⑥景観条例に従い、外装の色彩に配慮。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑫造作材の材料にミツガを採用。 ⑮夏季の卓越風向について、見付面積比41%、隣棟間隔指数0.64で、風通しに配慮。 	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑥ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東西工業株式会社 社屋建築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県藤枝市八幡字広通550-1 他	構造	S造
用途地域	準工業地域、22条区域	平均居住人員	70 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2024年6月5日
敷地面積	19,132 m ²	作成者	増田 洋一
建築面積	8,030 m ²	確認日	
延床面積	9,037 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 ・これは、CASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。 ・既存樹木を保存の上、多種の新設樹木・緑地を加え、外構緑化指数26%分の緑地を確保した上で景観形成にも配慮。また、空地率49%、夏季の卓越風向に対する見付面積比41%・隣棟間隔指数0.64を記録し、敷地内外の風通しを向上させた。		その他 (特になし)
Q1 室内環境 ショールーム兼事務室の昼光率は3.2%、照度は784lxとなるようにし、昼光利用・照明制御がしやすいよう配慮した。	Q2 サービス性能 外壁材には耐用年数25年、設備配管には期待耐用年数40年の素材を採用し、建築物の耐用年数を長くした。	Q3 室外環境(敷地内) 景観条例に従い、外装の色彩を周辺の街並みにバランスよく調和させた。また、道路境界沿いや駐車場にライトを設置する事で、防犯性向上に配慮。
LR1 エネルギー (@BEIm=0.44をマークし、省エネ基準(大規模工場モデル)にの基準に対し、よりよい省エネ性能となった。	LR2 資源・マテリアル 節水に配慮し、自動水栓の洗面器と節水型便器を採用。また、断熱材は、いずれもODP=0,GWP=最大3の断熱材を採用し、オゾン層破壊および地球温暖化の防止に配慮した。	LR3 敷地外環境 駐輪場、並びに十分な量の駐車場・2方向の出入口を設置し、交通負荷を抑制するよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される